2年 ファインアート科絵画専攻

2025.06.24訂正

絵画演習ーコラージュから絵画へ

担当教員　　**室井公美子**

受講アトリエ 【601】

2025/06/23(月)- 07/12(土)

9：20-12：30/13：30-16：30

授業内容

コラージュを絵画の出発点とすることで、構成力を養い、組み合わせによる視覚効果を理解します。また、コラージュの要素を模写することで、観察力と描写力を高め、絵画表現の幅を広げることを目指します。

授業スケジュール／計画

			指導	1限　　2限	指導	3限・4限	備考
1	6月23日	月	○	導入・前提講義		コラージュ準備	コラージュに必要な資料を集める
2	6月24日	火		造形演習	○	コラージュ制作	
3	6月25日	水		コラージュ制作		コラージュ制作	
4	6月26日	木		コラージュ制作		コラージュ制作	
5	6月27日	金		コラージュ制作	○	コラージュ制作	
6	6月28日	土	○	コラージュ講評		ー	着彩に必要なものを準備しておく
	6月29日	日					
7	6月30日	月		油彩(アクリル)制作		油彩(アクリル)制作	
8	7月1日	火		造形演習	○	油彩(アクリル)制作	
9	7月2日	水		油彩(アクリル)制作	○	油彩(アクリル)制作	
10	7月3日	木		油彩(アクリル)制作		油彩(アクリル)制作	
11	7月4日	金		油彩(アクリル)制作	○	中間講評	
12	7月5日	土		油彩(アクリル)制作		ー	
	7月6日	日					
13	7月7日	月		油彩(アクリル)制作		油彩(アクリル)制作	
14	7月8日	火		造形演習		油彩(アクリル)制作	
15	7月9日	水	~~○~~	油彩(アクリル)制作	○	油彩(アクリル)制作	
16	7月10日	木	~~○~~	油彩(アクリル)制作		油彩(アクリル)制作	
17	7月11日	金		油彩(アクリル)制作	○	講評会	
18	7月12日	土		アトリエ掃除		ー	各自、制作場所の整理をすること

学習目標

この授業では、コラージュを出発点として、**自身の絵画表現の可能性を自ら押し広げていくことを目指します。**
①構成力を探る: **B2サイズのコラージュ制作**を通して、既成概念にとらわれずに画面を組み立てる構成力を探求します。
②視覚効果を使いこなす: 素材の組み合わせや配置によって生まれる多様な視覚効果を発見し、それを自らの表現意図に合わせて使いこなす術を学びます。
③観察力と描写力を深化させる: コラージュの複雑な要素を取捨選択しながら **F15 号のキャンバスに描写する**ことで、それを再現する描写力と絵画の構成力を深化させます。

予習・準備物

エスキースに必要な画材：**クロッキー帳、鉛筆、色鉛筆など**
コラージュに必要な画材：**のり、ハサミ、カッター、コラージュに必要な任意の写真、雑誌、画像のコピーなど**
着彩に必要な指示体：**F15号キャンバス、着彩用具（油彩、アクリル）**

＊コラージュに必要な指示体は、学校で準備します：パネル、B2画用紙

注意事項

他の学生の作品も参考にし、多様な表現方法を学ぶこと。
授業中は、制作に集中すること。
他者への配慮を心がけ、お互いが気持ちよく制作できるアトリエ空間にすること。

評価方法

①コラージュ作品　②コラージュを元にしたF15号の着彩作品　③レポート　④取り組み姿勢

2年 ファインアート科絵画専攻

絵画の空間

担当教員　　**山本晶**

受講アトリエ【601】

2025/06/04(水)-06/21(土)
9：20-12：30/13：30-16：30

授業内容

「絵に描いた餅」という言葉を聞いたことがありますか？　描かれた餅は食べられません。持つこともできません。
ただ、自分が絵の中に入ったら食べられます。熱い餅も気にせず持つことができます。
このように絵画には独特な空間があります。昔の作品から現在の作品まで、アーティストやクリエイターはどんな空間を作り出しているのか研究し、作品を作って実践します。

授業スケジュール／計画

			指導	1限　　2限	指導	3限・4限	備考
1	6月4日	水	○	オリエンテーション		空間制作	
2	6月5日	木		空間制作		空間制作	
3	6月6日	金	○	空間制作	○	目黒区美術館鑑賞	
4	6月7日	土		空間制作		ー	
	6月8日	日					
5	6月9日	月	○	絵画制作		絵画制作	
6	6月10日	火		造形演習		絵画制作	
7	6月11日	水	○	絵画制作		絵画制作	
8	6月12日	木		絵画制作		絵画制作	
9	6月13日	金	○	絵画制作		絵画制作	
10	6月14日	土		絵画制作		ー	
	6月15日	日					
11	6月16日	月	○	絵画制作		絵画制作	
12	6月17日	火		造形演習		絵画制作	
13	6月18日	水	○	絵画制作		絵画制作	
14	6月19日	木		絵画制作		絵画制作	
15	6月20日	金	○	講評	○	講評	
16	6月21日	土		片付け		ー	

学習目標

モチーフを描く時には必ずその周りの空間こそ描かないと絵は成立しません。
遠近法の発見、カメラの誕生、美術館の登場など、その時代の作品と技術革新の関係を理解し、自分自身の絵画の空間を探ります。

予習・準備物

実際にモチーフを工作で作ります
100円ショップで売っているものを利用するなど、既製品を使うのもいいでしょう
それぞれ必要なもの：カッター、カッターマット、木工用ボンド、のり、はさみ、画材一式、スケッチブックを準備してください

注意事項

目黒区美術館「遥かなるイタリア　川村清雄と寺崎武男」展を鑑賞しに行きます
鑑賞無料、学芸員さんによる解説もあります
日程に変更があり次第すぐ連絡しますので、必ず参加してください

評価方法

出席　制作姿勢　作品

2年 ファインアート科絵画専攻

20250527_修正

銅版画

担当教員　　**馬場知子**

受講アトリエ【版画工房/601】

2025/05/23(金)-06/03(火)
9：20-12：30/13：30-16：30

授業内容

まずテストプレートで様々なマチエール表現を試しながら「道具、薬品の使い方」「描画」「製版」「刷り」の作業工程を理解し体得していきます。本作では自分のイメージの具現化に必要な表現や技法を選択し制作します。
（わからないことはなんでも聞いてください。安全に楽しく制作しましょう）

授業スケジュール／計画

			指導	1限　2限	指導	3限・4限	備考
1	5月23日	金		ー	○	講義、デモストレーション	
2	5月24日	土		制作		ー	
	5月25日	日					
3	5月26日	月		制作	○	制作／エスキースチェック	
4	5月27日	火		造形演習	○	制作／エスキースチェック	
5	5月28日	水		制作		制作	
6	5月29日	木	○	制作		制作	
7	5月30日	金		制作		制作	
8	5月31日	土		制作		ー	
	6月1日	日					
9	6月2日	月		制作	○	制作	
10	6月3日	火		造形演習	○	講評	

学習目標

銅版画の制作プロセスを修得し、作品を完成させます。銅版画には様々な技法がありますが、エッチングを中心に物質の変容と結びついた腐食技法の多様な表現に触れます。版を媒介することで生じる他者性を柔軟に取り入れながら自分の表現の世界を広げましょう。

予習･準備物

予習：今回自分が挑戦したい表現や描いてみたいテーマがあれば簡単な下絵を用意して見せて下さい。（なくてもよい）準備物：◇インク（シャルボネ 55985,文房堂インク青口）◇グランド◇黒ニス◇裏止め用塩化ビニールシート◇リグロイン◇プリントクリーナー◇人絹◇寒冷紗◇ニードル人数分　スクレーパー　バニッシャー◇ハーネミューレ◇ピカール◇青棒◇松脂等アクアチントセット◇スパイクラベンダーオイル◇マットフィルム◇サンドペーパー（60～180番）

注意事項

工房でのルールに則り、機材や材料を適切に扱い安全に努めること。制作に適した服装で臨むこと。サンダル、ヒールは禁止。 ＊エプロン、ビニール手袋（丈夫なもの）持参。＊作品銅版サイズ24×18cm

評価方法

課題作品70%　制作姿勢（熱意・積極性など）30%

2年 ファインアート科絵画専攻

20250521_修正

混合技法

担当教員　　**熊谷宗一**

受講アトリエ 【601】

2025/05/07(水)-05/22(木)
9：20-12：30/13：30-16：30

授業内容

有色下地を施したキャンバスにエマルジョンテンペラと油彩の積層からなる描画により、視覚的リアリズムを追求する。

授業スケジュール／計画

			指導	1限　　2限	指導	3限・4限	備考
1	5月7日	水		授業準備／図版選定	○	オリエンテーション 地塗り／図版選定	
2	5月8日	木	○	トレース／墨入れ		墨入れ／有色下地塗布	
3	5月9日	金		エマルジョンテンペラによる白色浮出	○	エマルジョンテンペラによる白色浮出	
4	5月10日	土		エマルジョンテンペラによる白色浮出		ー	
	5月11日	日					
	5月12日	月	健康診断				
5	5月13日	火		造形演習	○	油彩グレーズ／白色浮出	
6	5月14日	水	○	油彩グレーズ／白色浮出		油彩グレーズ／白色浮出	
7	5月15日	木	○	油彩グレーズ／白色浮出		油彩グレーズ／白色浮出	
8	5月16日	金		油彩グレーズ		油彩グレーズ／油彩描写	
9	5月17日	土		油彩グレーズ／油彩描写		ー	
	5月18日	日					
10	5月19日	月		油彩グレーズ／油彩描写		油彩グレーズ／油彩描写	
11	5月20日	火		造形演習	○	混合白によるハイライト	
12	5月21日	水	○	油彩グレーズ／油彩描写	○	講評／片付け	
13	5月22日	木		面談（室井先生）		ー	

学習目標

ルネサンスから近代に至るまでの西洋絵画の主な油彩技法である油彩とテンペラによる混合技法を習得することを目的とする。

予習･準備物

人物や動物、物などが大きく撮影された写真を３～５枚各自準備する。写真は自分が撮影したもの、そして明暗の対比、光の方向が明確なものが望ましい。
作品のサイズはF4号。
尚写真は初日オリエンテーションの際に講師と共に話し合い、どれか1点を選択し作品の資料とする予定です。

注意事項

評価方法

提出課題による採点

2年 ファインアート科絵画専攻

造形演習

担当教員　　**船井美佐**

受講アトリエ ［502］　　2025/04/15(火)- 07/08(火)

9：20-10：50/11：00-12：30

授業内容

絵画について伝統的な様式から近現代までのあり方を時代順に比較しながら学ぶことで、現代のまだ見ぬ新しい絵画表現について考えるための基礎的な知識と技術を養う。毎回、美術史のレクチャーの後に、実際の画材や技法を体験し課題を制作する。１、「絵の中」何をどう描くか？ ものの捉え方や構図など、対象を２次元に表す方法の様々について。２、「絵の表面」何を使って描くか？ 絵具や絵肌、支持体など物質としての絵画のあり方の変化について。３、「絵の外側」どのように展示するか？作品と人と空間の関係の多様性について。最後にそれまで学んだことをもとに制作したドローイングを空間にインスタレーションとして構成して講評する。

授業スケジュール／計画

			指導	1限　　2限	指導	3限・4限	備考：持ち物（）は学校が用意する物
1	4月15日	火	○	オリエンテーションとアーティストトーク 自己紹介、自分の作品について話す		実技カリキュラム	自己紹介カード、一番気に入っている自分の作品（モニター、マイク）
2	4月22日	火	○	「イメージを形にする①」言葉とコンセプト 世界で活躍する現代アーティスト、オノヨーコ、草間彌生など		実技カリキュラム	鉛筆、消しゴム、アクリルまたは水彩絵具のセット（画用紙カード）
	4月29日	火					
	5月6日	火					
3	5月13日	火	○	「イメージを形にする②」ドローイング 現代のさまざまな絵画表現、抽象と具象		実技カリキュラム	鉛筆、消しゴム、アクリルまたは水彩絵具のセット（画用紙カード）
4	5月20日	火	○	「もののとらえ方①」水墨運筆 東洋絵画の特色、デフォルメ、構図、線と面で捉える		実技カリキュラム	（墨、硯、筆、和紙、絵手本）
5	5月27日	火	○	「もののとらえ方②」デッサン 西洋絵画の始まり、ルネッサンス、遠近法、光と影で捉える		実技カリキュラム	指導：工藤　（コンテ、コピー用紙、フィキサチーフ）
6	6月3日	火	○	「構図と色彩」色彩構成 近代化による絵画の変化、マネ、モネ、ゴッホ、ピカソ、		実技カリキュラム	鉛筆、アクリル絵具のセット、定規、コンパス（画用紙、パネル、刷毛、筆洗、水張テープ）
7	6月10日	火	○	「構図と色彩」色彩構成 抽象絵画の始まり、カンディンスキー、モンドリアンなど		実技カリキュラム	鉛筆、アクリル絵具のセット、定規、コンパス（画用紙、パネル、刷毛、筆洗、水張テープ）
8	6月17日	火	○	「身体・物質・偶然性」大画面にドローイング 第二次大戦後の新しい表現、ポロック、ロスコ、具体、アンフォルメルなど		実技カリキュラム	アクリル絵具セット　(ブルーシート、板段ボール90x90cm)
9	6月24日	火	○	「空間構成①」 70年代～ポップアート、コンセプチュアルアート、ソルウィット、フランク・ステラ、リヒター、新表現主義～現代の動向まで		実技カリキュラム	アクリル絵具セット、カッター　(ブルーシート、板段ボール90x90cm、段ボールカッター)
10	7月1日	火	○	「空間構成②」講評に向けて作品を仕上げる		実技カリキュラム	指導：工藤　アクリル絵具、カッター　(シート、板段ボール90×90cm、段ボールカッター)
11	7月8日	火	○	「空間構成③」講評会　1人ずつ壁面に構成する		実技カリキュラム	（布ガムテープ）

学習目標

アーティストとして制作していく上での基礎となる美術の知識を学ぶ。古今東西の絵画にまつわる様式や表現の歴史について知り、さまざまな絵画様式を体験する。これまでの絵画の遍歴や特質を知ることで現代の自分の位置について考え、自分だけの新しい表現を生み出していくための力を培う。

予習･準備物

この授業では毎回、美術史を時代順に解説し、それと呼応した実技の課題に取り組みます。１回の授業につき１つの制作をして毎回提出します。　準備物は授業ごとに異なります。基本的な、鉛筆、練りゴム、消しゴム（デッサンのセット）、筆、パレット、アクリル絵具（絵具のセット）は各自用意してください。パネル、紙、特別な画材は学校で用意します。1回目の授業では、自己紹介とアーティストトークの練習を兼ねて、講師が自身の作品について話した後、1人ずつ自分の作品について話します。1人5分程度。自分が今まで作った中で一番気に入っている作品を持ってきてください。事前に自己紹介プリントを記入して提出してください。作品が持ち運べない場合は画像をプリントして持ってきてください。

注意事項

毎回、モニターで美術史上の名画を紹介しながらレクチャーを1時間、その後にそのテーマと関連した実技を2時間行います。導入部分を聞かないと理解できなくなくなるので遅刻しないように注意してください。古典から現代まで順番に時代を追って体験していく内容となっているので、欠席の無いように。制作の進行状況に合わせて上記の日程は前後することがあります。

評価方法

導入の講義を聞かないと学習できないため出席を重視します。各回のレクチャーの理解度、課題の提出、をそれぞれ各回2~4ポイントとして点数を合計します。
さらに、取り組む姿勢と、講評での最終課題の評価を加算して合計を出します。満点は合計１００点。欠席した場合は、その回で取り上げた時代と作家について自分で調べてレポートにまとめて感想を書いて提出することと、課題を仕上げて後日提出することによって、それぞれ加算します。（レポートはA4を1枚程度。）

2年 ファインアート科絵画専攻

ドローイング

担当教員　　**室井公美子**

受講アトリエ［601］　　2025/04/09(水)-04/16(水)
9：20-12：30/13：30-16：30

授業内容

「ドローイング表現：新たな視点と思考を自由な素材表現で制作していく」というコンセプトをもとに、既成の技法や形式にとらわれず、自由な発想やアイデアを大切にします。手を動かしながら、自分の中に潜む新たな可能性を発見してゆきます。

授業スケジュール／計画

			指導	1限・2限	指導	3限・4限	備考
1	4月9日	水	○	前提講義・制作	○	制作	
2	4月10日	木		制作		制作	
3	4月11日	金		制作	○	制作	
4	4月12日	土		制作		ー	
5	4月13日	日					
6	4月14日	月	○	制作		制作	
7	4月15日	火		造形演習	○	講評会	
8	4月16日	水				ー	

学習目標

制作を通じて多様な素材に触れ親しみながら、自身の制作の根幹となるものを発見してゆく。

予習・準備物

ドローイングとは何か、自分なりに調べて考えておきましょう。使用したい素材や画材があれば、適宜持参してください。

注意事項

自分の興味のあるテーマに関わるものことなどの資料を順次用意しておくこと。

評価方法

提出課題及び取り組み姿勢。ドローイング（上限なし）、レポート。

2年ファインアート科絵画専攻

イラストレーションA（絵画）

担当教員　　**今野樹里恵**

受講アトリエ［601］　　2025/04/17(木)-2025/4/26(土)

9:20-12:30/13:30-16:30

授業内容

　テーマに沿って連作を制作する。既存イメージができているテーマを、自分だけの表現方法で再構成すること。更に複数点制作することにより、自分の持っている世界観や表現方法を統一感のあるものとして表現することを学ぶ。

授業スケジュール／計画

			指導	1限　　2限	指導	3限・4限	備考
1	4月17日	木	○	オリエンテーション		制作	
2	4月18日	金		制作	○	制作	
3	4月19日	土		制作		ー	
	4月20日	日					
4	4月21日	月		制作	○	制作	
5	4月22日	火		造形演習	○	制作	
6	4月23日	水		制作		制作	
7	4月24日	木		制作	○	制作	
8	4月25日	金		制作		制作	
9	4月26日	土	○	講評		ー	

学習目標

テーマに基づくイラストレーション制作を修得します。一つの世界観で一連の作品を制作すること、自分の内面を表現するだけでなく外的要因（テーマ）に応じて制作をすることで、既存の表現に囚われずに新しい自分だけの表現を目指します。

予習・準備物

連作制作に必要な画材（支持体・絵具など）。イメージができてから授業中に用意しても良い。

注意事項

授業時間内に制作完成させること。

評価方法

課題提出と出席で評価する。